

島根県公立小中学校
事務職員研究会

会長：青山悦子
(松江市立島根中学校)

編集：情報部

VOL.62 2018.3.3 (雛祭号)

発行責任者 蘿 恵 (志学中学校)

島事研ホームページ

<http://www.oh-net.com/~kenjiken/>



【目次】

- ▶ 今、自分にできることを
(浜田教育事務所長 鳥居正嗣)
- ▶ 研究部コーナー
- ▶ 研修報告 (中国地区事務研究大会)
- ▶ 教育センターに勤務して
- ▶ 益田市南部事務支援グループの取組
- ▶ 人権コーナー
- ▶ まんが「フーちゃん」



今、自分にできることを



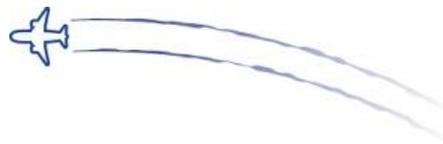
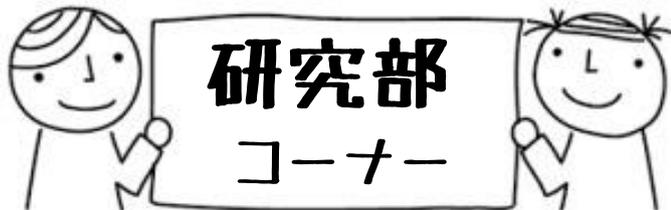
浜田教育事務所長 鳥居 正嗣

島根県公立小中学校事務職員研究会におかれましては、第五期研究中期計画を策定され、研究テーマとして「学びの質の向上につながる学校事務の展開～教育活動へのより深いかかわりをとおして～」を掲げて真摯に、そして継続的に取り組んでおられることに対し敬意を表します。資質・能力の育成を柱とした新学習指導要領が告示され、子どもたちの「学びの質の向上」について捉えなおす取組も必要になってきています。

このような中、私も第48回島根県公立小中学校事務研究大会に参加させていただきました。熊丸真太郎准教授の講演では、「学びの質の向上」について新学習指導要領の概要解説とともに学校事務の質の転換が求められることについて触れていただきました。また、このことにも関連させながら、学校教育法の「事務に従事する」から「事務をつかさどる」への改正について、具体的なイメージを持つことができるような解説やグループワークもしていただきました。特にグループワークでは会員の皆様が熱心に協議を重ね、考えを共有し深めている姿に頼もしさを感じました。既に各学校において「事務をつかさどる」に向かい、自分がチャレンジしたいと思ったことを着実に実践に移されていることと思います。

また、本年1月5日付けで学校企画課長より、島根県公立小・中・義務教育学校事務職員人材育成方針(案)に対する意見募集の依頼が各学校へ送付されていますので、この内容については、ご承知のことと思います。県教育委員会としても案として示しているとおりに、人材育成の基本方針として掲げた「学び続ける学校事務職員」実現のために研修等において支援を行っていきます。学校事務職員の皆様も各学校での取組や事務グループでの活動等において「学び続ける事務職員」に向かって取り組んでいただきたいと思います。その際、「学びの質の向上」に向かって、そして、「事務をつかさどる」ことに向かって、管理職をはじめとした教職員へ自分の思いを熱く語っていくことも必要ではないかと思えます。そのためには、管理職自身が学校事務職員の職務や事務グループ活動に対する理解を深め、皆さんの思いが実現するように働きかけていくことが何よりも大切になると思っています。

それぞれの学校が目指す子どもの姿に向かい、個々の役割を果たしながらチームとして「学びの質の向上」に向かった取組が充実し、それぞれの思いが叶っていくことを願います。



研究部 部長 岡田由美

1. モニター地区との連携・取組状況

(1) 取組内容

① 出雲市

- ・それぞれの事務支援グループで活用を推進。(活用状況ミニ報告会)
- ・年度末に具体的活用方法等についてまとめを行った。
 - ◎ 逆転発想マネジメントシート活用事例集の発行
 - ◎ 「あっとん@タグ通信」の発行

② 浜田市

- ・自己目標評価シートへの目標記入から評価記入の期間、自身の取組を記録しておくためのツールとして活用した。
- ・事務グループによっては情報交換時に持ち出し、課題解決につながるためのものとして活用した。

(2) 研究部との連携

① 出雲市

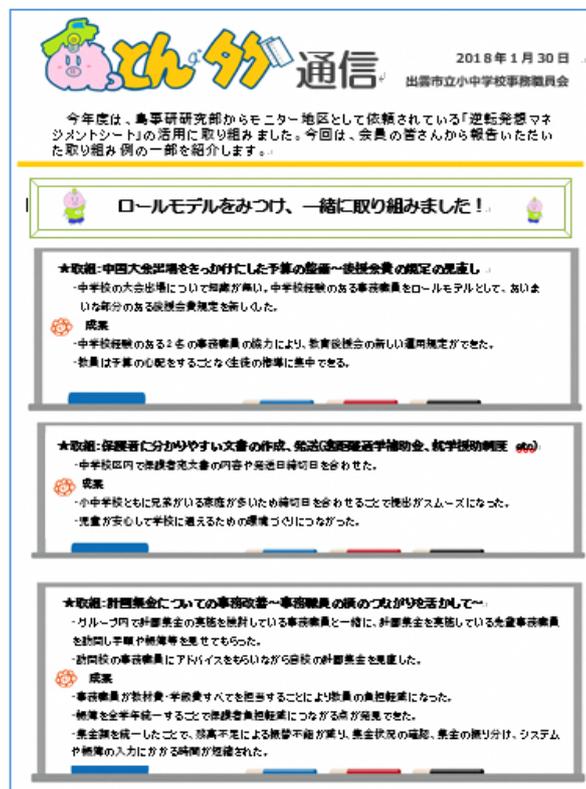
H29/6/27 『前向きな世代交代』について説明会

② 浜田市

H29/7/11 『前向きな世代交代』について説明会
世代ごとのワークショップの開催

(3) 今後の取組依頼 (出雲市・浜田市)

- ・第2回意識調査の実施
- ・モニター期間活動報告



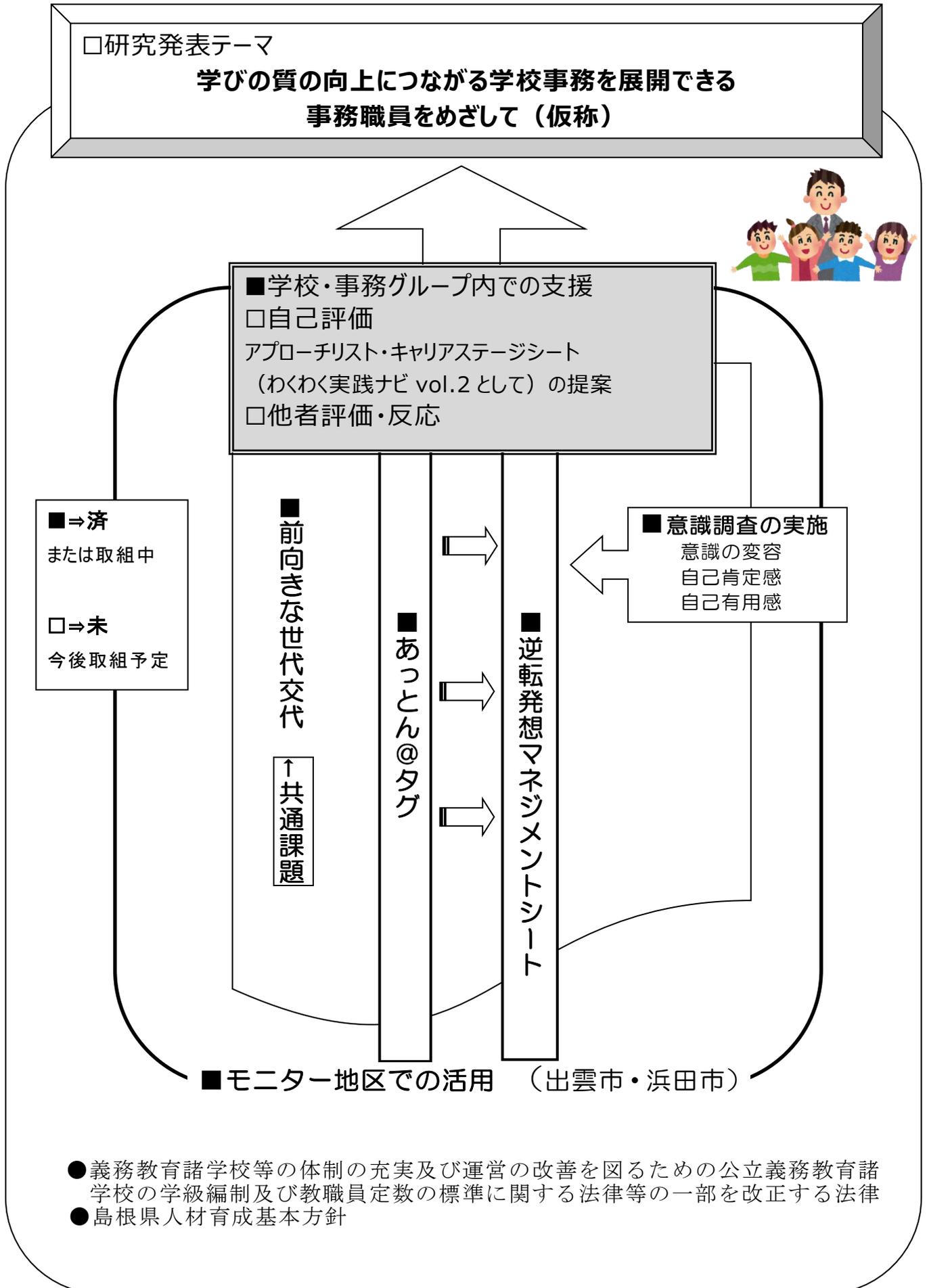
出雲市・浜田市の皆さんには2年間、日常の業務のモニター地区として活動をしていただきました。「モニター地区の活用」は初めての試みでしたが、モニター地区の責任者・会員の皆さんには、趣旨を理解し、普段の業務に加えて時間を割いて協力していただいたこと、心から感謝申し上げます。

研究部では出雲市・浜田市において説明や情報交換の場をもち、会員の皆さんのお話をお聞きしたりワークショップでたくさんの意見を出していただいたり、各地区の雰囲気を感じとることができ貴重な機会になりました。

今後、熊丸真太郎先生から指導助言をいただきながら、2年間の取組や意識調査の結果をもとに、岡山大会に向けて研究をまとめていきます。

モニター期間は終わりましたが、出雲市・浜田市の皆さんはもちろんのこと、県内各地の会員の皆さんも、是非島事研 HP に掲載してある「あっとん@タグ」「逆転発想マネジメントシート」を活用していただき、「学びの質の向上」を意識しながら日常業務また課題解決に向かっていただけると嬉しいです。

2. 研究の進捗状況と概要



平成29年度 中国地区公立小中学校事務研究大会 12月8日 (会場：山陽新聞社本社ビル さん太ホール)

参加報告 島事研情報部

◎講演

「次世代の学校づくりと業務改善
～学校事務職員の機能と役割～」

講師 鳴門教育大学大学院学校教育研究科
高度学校教育実践専攻教職実践力高度化コ
ース 教授 久我 直人 氏

共同実施の最終目標は、「子どもの健やかな成長」である。学校では、子どもの生きる力を育成するため、子どもの「Iを伸ばす」(自分の能力を伸ばす)、「Weの世界を広げる」(人や社会と関わる力を広げる)ということが重要になる。学校では子どもや教員の数が減り業務量は増えているのに、以前と同じ組織体制のままである。次世代の学校づくりには業務改善が必要であり、そのためには「効果のある学校づくり」「教師の意識改革」「チーム学校での教育支援」「学校事務の共同実施機能」を組織として行っていくことである。学校事務職員の強みを生かしながら学校運営に参画していくこと、共同実施の成果、効果を可視化し、なくてはならないものとしていくことなど興味深い話だった。目標を頭に置き共同実施でできるものを改めて考えるよいきっかけとなった。

◎シンポジウム

「ビジョンと戦略 ～業務改善の視点から～」

パネリストとして、岡山県教育庁教職課の方、岡山市教育委員会の方からの「働き方改革」の報告に驚いた。どちらも本気度が高い取組だったからである。

それは、どちらの改革プランも、研究推進組織をしっかりと構築していること。そして、実態をきちんと把握し、現状の共有をしていること。実態から課題解決に向けた優先順位の設定を定めていること。さらにはプロジェクトの目的、目標をしっかりと定めていることである。とくに驚いたのが、取り組んだ結果、どれだけの効果があったのか、負担軽減につながったのかを、全て『可視化』していたことであった。この『可視化』によって教職員の意識も変えていたのである。

「働き方改革」は、学校だけの取組では難しい面があり、行政が主導となり学校、各関係機関の方と一緒に実施しなければならない取組であることを感じた。しかし、難しい面はあっても、『可視化』するという手法は、何かを変えていく、改革していく、改善していくといった取組の中でとても重要であり、大切であることを強く感じた。

業務改善も同じことが言えるのだ。リサーチし、把握・共有し、ターゲットを絞り、そして取り組むこと全て『可視化』する。このことによって、私たちの意識改革を図るだけでなく、事務職員以外の管理職、教員、教育委員会といった周りの人たちに広がり、認知につながるのである。

シンポジウムの中で、業務改善を成功させる上で重要なことは、「ターゲットを絞ること」とであると言われた。学校には、改善できる業務が数多くあると思うが、一度にそれら全てに取り組んでは学校組織が変化についていけない。例として岡山市の取組では、学校現場の多忙化を解消するために行政からは統合型校務支援システムの導入や人材配置事業、学校からは行事や会議の精選・効率化など行政・学校両者が様々な取組をしていた。しかし、岡山市はこれらの取組を一手に集中して行うのではなく、年度毎にある程度ターゲットを決めて進めていた。取組の内容・規模によって、単年度で達成できるもの、複数年度で達成できるものに分けて進めてみることも良いだろう。ターゲットを絞って確実に取組を行い、一步一步足場を固めていくことこそ学校現場に定着した業務改善になると感じた。





島根県教育センターに勤務して

加藤 淳也

今年度、島根県教育センターに配属となり、手探りの状態ではありましたが、無事1年を終えることができました。

教育センターでの仕事は様々あり、主には学校事務職員研修の企画・実施を担当しています。現在学校事務職員に対する研修は、職務研修に加え、9つの能力開発研修、事務リーダーに対する選択研修として42の講義を実施しています。

今年度、主担当・副担当として学校事務職員が受講するほぼすべての研修にかかわり、改めてその仕事の範囲の広さを感じています。現在次年度以降の研修計画について見直しを含め検討しているところです。

さて、研修を計画するうえで考えることは多くありますが、皆さんは学校事務職員に必要な研修とはどのような研修だと思われますか？また、研修で磨くべき学校事務職員の専門性とは何でしょうか？経験や学校規模、校種など様々な条件によって必要な内容は違って来るかもしれません。いろいろなお考えもあろうかと思えます。私自身明確に答えを持っているわけではありませんが、学校事務職員が担う仕事の範囲は膨大かつ複雑であり、学校事務そのものに対してピンポイントで補う研修の計画は非常に難しいと感じています。学校事務職員の専門性を養う研修とはどのような形が理想的なのかなかなか見つからず、自分自身の勉強不足を感じています。

ただ、学校事務職員が一番大きく成長できるのは、管理職からの指導助言や、同僚の教職員との協働による、各学校における教育活動の推進だと思っています。学校事務職員が当たり前だと思う情報やスキルが他の教職員にとってはとても新鮮であったり、逆に他の教職員が持つ情報やスキルが学校事務職員にとって新鮮であったり、新たな気づきにつながることもあると思います。お互いが自分の範囲を決めることなく子どもたちのことについて話すことで教育活動も向上し、事務職員のスキルや経験、知識の深まりもでてくるのではないのでしょうか。また、すべての学校で同じように教育活動を進めるためには事務グループは欠かすことのできない存在だと思っています。学校事務における課題については、事務グループ内での情報共有や他の事務職員からのアドバイスなど、学校事務職員でなければ解決できないものもあると思います。経験年数の浅い学校事務職員が、学校内で自信をもって仕事ができる。そのためのバックアップ機能が事務グループ業務の一つとしてあるのではないかと考えています。最後に、県で行う研修については、学校や事務グループにおいて必要となる知識や協働して成果を上げていくためのスキルを磨いていけるような研修や、学校事務職員同士が情報共有できるためのグループワークなどを積極的に取り入れていきたいと思っています。そして学校事務職員が学校内で力を発揮していくためには管理職や他の教職員の理解も深めていく必要があります。いろいろな機会をとらえ、学校事務職員の役割について話ができるよう働きかけていきたいと思っています。



次年度からは、あらたに学校事務職員に対する能力開発研修、出前講座等の実施も検討しています。すべての学校事務職員が主体的に学校運営に関わり、子どもたちの教育環境を豊かにすることが出来るよう、皆さんのご意見を伺いながら、改善すべきところは改善し、少しでも実態に即した研修実施に向け努力していきたいと思っています。



益田市南部事務支援グループの取組について

昨年11月10日江津市で開催された島事研大会でも触れていますが、最初に益田市立小中学校事務支援グループについて説明します。

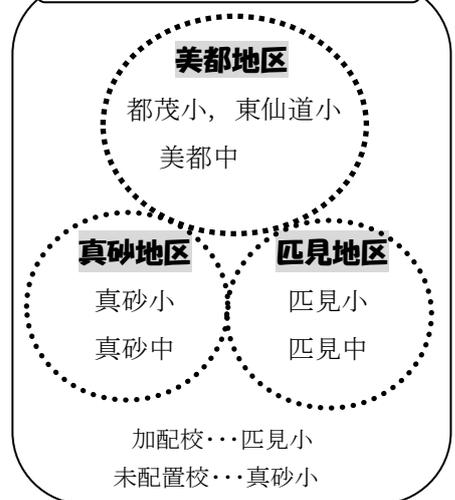
目的

教育に対する期待に十分応えられるよう、学校事務職員が事務支援グループを構成し組織的に連携・支援を行うことにより、学校運営の効率を高め、また事務職員相互による能力・意欲の向上を図り、より効果的な教育活動の展開と円滑な学校運営を創造する

活動の観点

- ①総合的かつ全校的な視野で教育活動を支援
- ②未配置校及び大規模校への組織的な支援体制の確立
- ③事務職員相互の補完による学校事務の効率的処理
- ④学校管理運営の適正化・効率化
- ⑤教員が行う事務・業務の負担軽減
- ⑥市全体の学校事務の効率的運用

南部事務支援グループの構成



グループ組織編成

- 東部グループ…学校数 4校、事務職員数 4人
- 南部グループ…**学校数 7校、事務職員数 7人（加配校1校・未配置校1校）**
- 中部グループ…学校数 10校、事務職員数 12人（加配校2校）
- 西部グループ…学校数 6校、事務職員数 5人（未配置校1校）

南部グループは美都地区、真砂地区、匹見地区の3地域で構成されており、グループ会を各学校で開催するには地理的に範囲が広く片道1時間以上もかかることや、学校での開催場所の確保も難しいということで、中間地点にある益田市の市民学習センターを利用して毎月グループ会を実施しています。

また、グループウェア「サイボウズ」を利用した情報交換等や、地区単位での支援も行っています。今年度は他町からの転入もあり、毎月1回の定例会とは別に、年度当初は該当校に出かけ、益田市の事務処理の仕方についての支援も行いました。

2学期には、益田教育事務所総務課員によるグループ活動視察、益田教育事務所でのグループ会開催など、充実したグループ活動を行うことができました。本グループは経験年数の浅い事務職員が多いため、「事務職員の資質向上」を目標の一つにしています。県費事務の事例を総務課員と一緒に考えることにより、適正な判断の視点を知ることができ、実務能力の向上につながる活動ができました。（次ページにその時の写真を掲載しています。）

平成29年度 事務支援グループ活動計画書

益田市南部事務支援グループ

<p>現状・課題</p>	<p>今年度も7名の事務職員のうち4名が主事(期限付きを含む)で更にその4名のうちの1名が他町からの転入で、事務職員の育成が事務グループに課せられた。事務グループ活動充実のために1名の加配があるが、事務リーダー1年目ということもあり、その効力をうまく活かすことができるか一抹の不安がある。南部事務支援グループとしては事務職員及び学校全体の事務効率化と、若年経験事務職員への支援を考えている。並びに事務職員自身の資質向上も図っていききたい。</p>														
<p>目 標</p>	<p>(1)学校事務の効率化・適正化 (2)事務職員の資質の向上</p>														
<p>重 点</p>	<p>(1)学校事務の計画的執行と確かなシステム (2)事務職員未配置校を含めたグループ内学校の事務の支援 (3)教職員に理解される取組の推進</p>														
<p>組 織</p>	<p>(1)事務支援グループ編成員(7名)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 150px;">真砂中学校</td> <td>事務主幹</td> </tr> <tr> <td>美都中学校</td> <td>主事</td> </tr> <tr> <td>匹見中学校</td> <td>主事</td> </tr> <tr> <td>東仙道小学校</td> <td>事務主幹</td> </tr> <tr> <td>都茂小学校</td> <td>主事</td> </tr> <tr> <td>匹見小学校</td> <td>事務リーダー</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>主事</td> </tr> </table> <div style="text-align: right;">  <p>(H29.12.7 益田教育事務所 協議室にて)</p> </div>	真砂中学校	事務主幹	美都中学校	主事	匹見中学校	主事	東仙道小学校	事務主幹	都茂小学校	主事	匹見小学校	事務リーダー	〃	主事
真砂中学校	事務主幹														
美都中学校	主事														
匹見中学校	主事														
東仙道小学校	事務主幹														
都茂小学校	主事														
匹見小学校	事務リーダー														
〃	主事														
<p>執行方法</p>	<p>(1) 事務支援連絡会 月1回程度 13:30~16:50 (2) グループ内学校 事務支援グループ編成員及び関係者 (3) 役割分担 活動計画・報告書、他グループの情報、諸機関との連絡調整(グループ長) 連絡会司会、記録簿保管、グループ長補佐(副グループ長) 連絡会案内文書・レジュメ・記録(編成員輪番) (4) サイボウズを利用した情報交換、意見交換等 (5) 小中連携による支援</p>														
<p>活動内容</p>	<p>(1) 年度当初諸手当認定・旅費請求書・特殊勤務手当・諸手当検認・年末調整書類等の相互点検と確認 (2) 給与システム入力チェック (3) 日常業務の疑問解決や注意点等の情報交換と内容の共有 (4) 赤本等を利用した法令等の確認・研修講座等の伝達・実務研修 (5) 期限付き主事への支援 (6) へき地学校合同学習等経費バス代見積もりと市費予算配分(美都町) (7) 通学用バス定期券の発行(匹見町・美都町)</p>														

※ グループ活動の実際の様子をお伝えしたいと考え、計画書を掲載しました。紙面で不明確な部分は、直接お答えしますので、ご連絡ください。このような交流も大切にしたいと考えています。

